

第71回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年4月13日(月) 14時～17時

兼題「逃げ水」

- 川井素山 ○花笈割れて二筋帯のごと
貝拾いし干潟を偲ぶ潮香かな
春灯に映ゆる酒桜の苔の庭
逃水や未読の多き書架の列
- 保井寶正 ○草千里末黒すぐろに染めて息吹まつ
金婚の旅ふり返える花行脚
逃水や追へども追へど磯づたひ
高千穂の岩懐に春の神
- 青木英林 ○山葵田に伊豆の踊り子裾絡からげ
雨上りフロントガラス花模様
逃げ水を追いかけて追った先は湖うみ
見上げればちと眠たげな朧月
- 後藤克彦 ○遠き山より遠く見ゆ春霞
咲く花の色とりどりに迷ふ蝶
逃水や廃校通ず道遠し
ほろ酔うて夜桜見ずの帰宅かな
- 佐久間喬 ○トンネルの先に咲き満つ花辛夷
逃げ水を追って飛び立つ戦闘機
逃げ水のずっと向こうは行き止り
たんぽぽや天の日受けて暮れ始む
- 佐々木彩女 ○宵宮の風にかそけき神楽笛
逃げ水の果てに行き盡く古刹かな
逃げ水を追いつつ遠き田舎道
職了えし卯月の朝の所在なし

永井正孝 ○一服の背中が語る花疲れ
逃げ水に楼蘭の景浮かび出る
暖かや子づれ小鳥の集い来る
雨垂れが撞木となりてあせび打つ

丸山酔宵子 ○一陣の風に渦巻く花筏
逃水や信濃路走るデジェブかな
山笑ふ浅間の煙り雲に溶け
目覚めれば雨か川音か梅見の湯

菊地崇之 ○昼餉時目刺し茶漬目も細む
勿忘草面影慕ふ胸の中
逃水や赤き道先追いかけぬ
賑いの移り時かな春休み

牧野里山 ○塔頭の突き抜けて見ゆ春かすみ
逃げ水の先に見ゆるは竹の寺
用水の流れに浮かぶ花筏
瞑想に松籟響き寺の庭

佐久間たか子 ○物思う月夜に浮かぶ花筏
ポケットに温もりふかき桜冷え
山里の地蔵に薫る桃の花
逃げ水にただ追うだけの鬼ごっこ

佐伯武雄 ○逃げ水に映る七十路伸ばす羽
散り急ぐ雨の場所取り花疲れ
色めいて和む肩こり春の服
桜散りこの世の未練寒い雨

大山龍海 ○風温し老いの心に芽吹きあり
逃げ水を思えば遠く砂漠あり
桜咲く永久の大和に榮あれ
桜散り池に雪花の積もりけり

吉田啓悟 ○仏像の裾の暗闇桜ちる
桜散るひそかな音を私す
眼に近きところに濡れて初桜
逃水や日はいつまでも大空に

山本草風 ○月照らす辛夷の花を舞妓とも
梅見旅処ところの香かな
明け仄か大地が息吹き春が来た
逃げ水を追い追いつきぬ冥土かな

金森純女 ○こもれびやかたくりの花揺れやまず
逃げ水を追ひしドライブラブソング
うさぎには食べさせるなどヨモギ抜く
土筆摘み誰にか見せむ日の暮れて

中山すえみ ○逃げ水や問うてみたいや摩訶不思議
つくし摘み机にならべて母を待つ
老いて今母偲ぶれど母子草
すずめさん桜のごちそう宴かな

次回 「萩句会」

日時 2015年5月11日（月）14時～17時

兼題『若葉』一句

当季雑詠三句 計四句